

子どもの本だな 34

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ロバのシルベスターとまほうの小石

ウィリアム・スタイグ さく
せた ていじ やく (評論社)

ロバのシルベスターはきれいな小石を集めています。ある雨の日、河原で赤く光った奇妙な小石を見つけました。小石を手にとったシルベスターが「雨がやんでくれたらなあ」と思ったとたん、空は晴れ渡りました。小石は魔法の力を持っていたのです。何を願おうかと考えながら帰る途中、山道でライオンに出くわし、たまげて「岩になりたい!」と願いました。岩になったシルベスターは小石を拾うことが出来ず元の姿に戻れません。春のある日、岩のまま過ごしてきたシルベスターの所へ、両親がやってきました。小石を見つけ岩の上のにせた二人の目の前で、シルベスターは元の姿に戻りました。

表情豊かな絵で描かれた動物たちが、美しい自然を背景に繰り広げる物語の中で、子どもたちはシルベスターになってハラハラし両親の心も感じながら、最後には大きな満足と幸福感を味わいます。読んでもらえば5歳位から楽しめます。(西村)

二年間の休暇

ジュール・ヴェルヌ 作
朝倉 剛 訳 (福音館書店)

ある夏の夜、荒れ狂う海に一艘の船がさまよっていました。8歳から14歳までの少年ばかり15人を乗せた船「スラウギ号」は、沖まで流され、2週間後、砂浜に打ち上げられました。ブリアンたち4人は探検に出かけ、湖のそばの洞穴で昔の遭難者が残した島の地図を見つめます。島は無人島で自力での脱出が不可能だとわかれると、壊れた船を離れ、洞穴で暮らし始めました。少年たちは最年長のゴードンを大統領とし、規律正しく生活し、勉強や討論会もしました。島を探検するたび、新たな獲物や植物を発見し、徐々に生活は豊かになりました。ところが2度目の冬の終わりごろ、ブリアンと事あるごとに対立していたドニファンが、仲間3人を連れて洞穴を出て行ってしまいました…。

『十五少年漂流記』で知られる物語。少年たちが様々な困難を乗り越え生き抜く姿をいきいきと描いています。たくましく成長した15人が岐路に着く結末を大きな満足感をもって迎えます。10歳くらいから。(池之上)

8月	9月	8・9月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
4日	8日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
18日	15日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
25日	29日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

お知らせ

「夏休みおはなしの夕べ」

日時：8月19日(金)

- ① 4歳~大人 18:00~
 - ② 小学高学年~大人 18:30~
- ろうそくの灯りのもと、神話や詩、物語を楽しみます。

途中からは入れませんので、時間までにお越しください。
8月の絵本の時間・おはなしの時間はお休みします。

『 忘れる力 思考への知の条件 』

外山 滋比古 著

さくら舎 180頁 2015年11月刊 1,400円 (請求記号)トヤ

現代の生活において、物事を記憶し、知識を蓄えることは良いこととされ、忘れることはいけなさとだと思われている。しかし、頭をよく働かせようとするのなら、まず頭の中をきれいに掃除する必要がある。夜、眠っている間に、記憶は自然と整理され、余計なものは廃棄され、忘却される。朝起きた時、頭はすっきりと、気分も前向きになれるのは、忘却のおかげなのだ。

興味深いのは、忘却による情報の取捨選択が、個人によつて異なることだ。同じ体験をしても、覚えていることが違うのは、忘却が価値観や好みなどに左右されるからだという。ある体験を、そのまま記憶する・修正する・捨てるという三つの作業によつて、記憶は洗練され、昇華される。日々のストレスを解消し、創造的な思考を行うために、忘却はいかに大切な働きであるかを、著者は言葉を変え、事例を重ねて深めていく。

子どもにとつて休み時間は、思い切り遊び、次の記憶に備える忘却の時間であること。一日の終わりに日記で出来事を吐き出し、翌日の朝、すっきりした頭で予定表を作成し、優先順位をつけて実行すれば仕事がつきめんにはかどること。物理学者でエッセイも豊富な寺田寅彦やアメリカの作家ヘミングウェイは、原稿を書き上げると、しばらく時間をおき、再読・再考して仕上げたという。これを「寝かせる」「風を入れる」というが、これによつて純度の高い表現になるのだと語る。

簡潔で読みやすい文章の中に、深い知恵が語られる。よい忘却のあと、新しい未知のものに目を向ける前向きな視点を持つことが大切である。ものの方や思考のあり方を、新鮮に変化させてくれる好著である。

(池田)

8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

13歳からの読書会

『運命の騎士』を読んで
(サトクリフ作・岩波書店)
イギリスの歴史小説を読み、感想を語り合います。
8月6日(土) 10:30~
場所：図書館(要申込)
対象：中学生以上

カレンダーの×印は休館日です。
開館は10時~18時。
金曜日は20時まで開館しています。

地下水

七月初め、幼稚園におはなしをしに行つた。帰りに風蘭を見ようと斑鳩寺に入り、高い木を見上げ歩いていると蛇を踏みそうになり、「ぎゃつ」と飛び跳ねた。後方から、いっしょに幼稚園に行つた職員NとボランテイアSさんの、「きれいな蛇でしたね。」などという会話が聞こえてくる。蛇に「きれい」という表現が新鮮で、穏やかに蛇について語る二人に、怖がる気持ちも和らいだ。

金曜日のもうすぐ閉館という時刻に、いつもは小さな男の子二人といっしょのお母さんが、一人で来られた。男の子たちは、お父さんとカブトムシを探りに実粟まで出かけているとのこと。カブトムシ、クワガタ採りは早朝の山で、と思ひ込んでいたので、コンビニ巡りでカブトムシを探るといふ話がおかしかった。コンビニの明るさにいるんな虫が集まってくるらしい。家に帰り、風呂もすませ部屋で本を読んでいると、開け放したドアの向こうで、虫が網戸に激しくぶつかる音がする。ブンブンという音にわくわくして振り返ると、どうもぐりこんだのかブーンと大きな音を響かせ、明かりめがけて飛んできた！大きな蛾が！重量感のある胴体、ブラシみたいな触覚に赤い眼、苦手なものほどくつきり見えてしまう。蛇愛でる二人がふと思ひ浮かんだ。蛾に親しみをもつ人が近くにいれば、少しは恐ろしさが和らいだらうか。やっばりあかんと、紙束を振り回し、外に叩き出した。

(竹内)

